

日本教師教育学会 第30回研究大会

大会テーマ：教師教育を原理的に問い直す

大会プログラム



会期：2020年9月12日（土）～13日（日）

※11日（金）15時より研究倫理研究会（限定公開）

会場：オンライン開催（明治大学）

主催：日本教師教育学会



日本教師教育学会第 30 回研究大会実行委員長より（ご挨拶）

大会実行委員長 佐藤 英二

9月12日（土）・13日（日）の2日間にわたり、明治大学において日本教師教育学会第30回研究大会を開催いたします。当初は本学の和泉キャンパスにてみなさまをお待ちする予定でしたが、感染症のリスクを考慮し、大会サイトと発表要旨集録への掲載、およびZoomを用いたリアルタイムの発表の形で実施することになりました。

教師教育学会は、さまざまなディシプリンを持つ研究者と実践者が「教師教育をどうしたらよいか？」という関心のもとで集まった学会です。所属機関もさまざまで、養成している教員の学校種も多様です。教員以外の専門職の養成に関わる会員もおられます。

研究大会は、その背景の違いを超えて関心を共有し、自らの議論の暗黙の前提に気づき、他の文化圏の人にも通じるように自分の言葉を磨く場（メディア）です。そうであってほしいという思いも込めて、今回、大会テーマを「教師教育を原理的に問い直す」としました。違いがあることに目を奪われてそこで思考停止に陥ってしまう、ということ避け、その違いを包括する、より大きな理論的な地図を作る試みに参加したいということです。

そして、シンポジウムのテーマは、「教師教育を原理的に問い直す～教師を目指す学生が大学で学ぶべきことは何か？」としました。Zoomを用いたリアルタイム配信の形で行います。初めての試みではありますが、質問を受け付ける準備もしております。フロアーとの活発なやりとりを期待しています。

それでは、9月にお会いするのを楽しみにしています。

大会プログラム 目次

大会テーマ	3
日本教師教育学会第 30 回研究大会要領	4
研究倫理研究会	9
課題研究Ⅰ	11
課題研究Ⅲ	12
研究倫理学習会	13
定期総会	14
シンポジウム	15
自由研究発表(1)	
第1分科会	17
第2分科会	18
第3分科会	19
第4分科会	20
第5分科会	21
第6分科会	22
第7分科会	23
第8分科会	24
第9分科会	25
第10分科会	26
自由研究発表(2)	28
課題研究Ⅱ	31
特別課題研究Ⅰ	32
特別課題研究Ⅱ	33
ラウンドテーブル(1)	35
ラウンドテーブル(2)	37
研究推進・若手交流企画	38
ポスターセッション(1)	40
ポスターセッション(2)	42

大会テーマ

教師教育を原理的に問い直す

この30年、教師教育はたびかさなる「改革」の波にもまれてきた。90年代の10年間は、国立大学の教員養成課程の学部定員が削減され、大学院の修士課程が拡充された。2001年の「今後の国立の教員養成系大学・学部の在り方に関する懇談会」（在り方懇）の報告書では、「モデル的な教員養成カリキュラムの作成」や「一般学部とは異なる教科専門科目の在り方」が提唱された。2006年の中教審答申では、教職大学院の設置、教員免許更新制の導入とともに、教職実践演習の義務化と教職課程の認定審査を強化する方針が打ち出された。その間、2004年には東京教師塾が開設されるなど、教師教育における教員採用主体の影響力が強まり、養成・採用・研修を一体化する方向性が強まった。そして2016年には教育公務員特例法・教育職員免許法・独立行政法人教員研修センター法が改正され、翌年の再課程認定において、教員養成のコアカリキュラムの導入や教育職員免許法上の科目区分の大括り化（教科に関する科目の再編）など、在り方懇の報告書の提案の多くが制度化された。この30年の「改革」の総仕上げが始まっているとあってよい。

この時代状況において、今回わたしたちは、「教師教育を原理的に問い直す」ことを大会テーマとして設定した。かならずしも確かでない根拠の下で性急に改革が進められ、目前の制度改変への適応が常に求められた結果、教師教育の在り方を構想する視座と知恵が失われ、視野狭窄に陥っていると考えるからである。

「一般学部とは異なる教科専門科目の在り方」の探求は、一般教養における教養への接近の仕方とは異なる教師教育の教養の在り方を深める可能性を持ちながらも、それが科目区分の大括り化として制度化された際、学問を探求する経験を欠き、定型的な教え方だけに習熟した教師を生み出す危険性をはらんでいるのではないか。養成・採用・研修の一体化は、生涯にわたる教師の成長を支えることに資する一方で、学校現場の支配的な価値観を大学において相対化する契機を失わせる危険性を帯びているのではないか。国際学力比較調査の結果が教育改革に直結する現状は、事実命題（調査結果）と規範命題（改革）との境界を崩落させる重大な問題をはらんでいるのではないか。これらの問題は、質保証や説明責任というレトリックの政治性に関わる、すぐれて現代的な問題であり、教育の公共性をどのように構築していくかという原理的な問題でもある。

以上の通り、矢継ぎ早に進められる教師教育の「改革」は、背後に吟味されない仮説を有している。＜いま、ここ＞の表面的な記述を超え、安易な処方箋のスケッチの繰り返しを超えるためにも、広い地図の中に＜いま、ここ＞を位置づける確かな学問的営為が求められているのである。

そして、「教師教育を原理的に問い直す」というテーマのもとで、公開シンポジウムを設定した。中心にある問いは、「教師を目指す学生が大学で学ぶべきことは何か」というものである。「教師を目指す学生が大学で学ぶべきこと」は、この30年間の「改革」、とりわけコアカリキュラムの設定によってある意味で明確にされたとも言えよう。しかし、改めてこの問いを原理的に問い直すことを通して、場当たりの対応ではない、射程の広い教師教育の視野（地図）を得たいと考える。「原理的に問い直す」とは、例えば他の領域における知見との隠された意味のつながりを探索することである。研究・実践の方法や内容の表面的な違いを超え、同じ問いに対峙する者として、大学において教師を育てることの意味を探る場としたい。

日本教師教育学会第 30 回研究大会要領

主催：日本教師教育学会

1. 大会テーマ

「教師教育を原理的に問い直す」

2. 会期

2020年9月12日（土） - 13日（日）

※ 大会前日の11日（金）15時より【限定公開】研究倫理研究会

3. 会場

オンライン開催

（コロナウイルス感染拡大への対応により、当初予定の明治大学和泉キャンパスから変更）

4. 日程

9月11日（金）		9月12日（土）		9月13日（日）	
		9:00~12:00	課題研究 I 課題研究 III	9:00~12:00	自由研究発表 (Zoom 発表希望者のみ)
		13:00~13:30	研究倫理学習会 (限定公開)	13:00~16:00	課題研究 II 特別課題研究 I 特別課題研究 II
		13:30~14:30	総会（学会員のみ）		
15:00~16:30	研究倫理研究会 (限定公開)	14:45~17:45	シンポジウム (限定公開)	16:30~18:00	ラウンドテーブル 研究推進・若手交流企画
17:00~20:00	新旧合同 理事会				

※限定公開：年会費全納の全学会員＋参加を申し込んだ非会員が参加可

学会員のみ：年会費全納の全学会員が参加可

理事会：学会理事のみが参加可

その他：参加を申し込んだすべての人が参加可

5. 大会参加費

参加される方は、必ず大会参加申込が必要になります。会員の方は大会参加申込と2020年度及び過年度の会費を8月31日（月）までに完納していれば参加申し込みできます。完

納されていない方は参加申込できません。また会員でなくても参加できますが、その場合も8月31日（月）までに事前申込だけでなく参加費の納入も済ませておく必要があります。各費用納入先の銀行口座・郵便口座番号は当学会 HP をご参照ください。

		会員参加費	非会員参加費
事前申込の場合	一般	無料	1,000 円
	学生	無料	500 円
当日申込の場合	一般	無料	当日受付不可
	学生	無料	当日受付不可

※本年度はオンライン開催により、情報交換会は開催いたしません。

6. 自由研究発表・ポスター発表について

- 開催形式のオンライン化にともない、今大会では『発表要旨集録』（大会ホームページで公開）への原稿掲載をもって発表したものという扱いになります。自由研究発表については、希望される方のみ、Zoom のリアルタイム配信機能を利用して口頭発表をしていただくための時間を設定しております（二日目）。以下はこのリアルタイム配信による発表についての説明です。
 - 自由研究発表の口頭発表者が1名の場合は30分（発表20分、質疑10分）、口頭発表者が複数の共同発表は50分（発表35分、質疑15分）です。
 - 発表取消があった場合は、以降の発表を繰り上げることはせず、その時間を質疑または休憩の時間に充てることにします。
 - 本年度は全体討議を実施いたしません。
 - 発表者と司会者は、分科会の開始10分前には発表会場（Zoom の割り当てルーム）に入室し、技術的な設定や簡単な打ち合わせを行ってください。
 - 遠隔配信につき、予鈴を鳴らすことはいたしません。それぞれ時間に注意しながら発表を行ってください。
 - 当日の報告時間には、司会の指示に従いつつ、「画面の共有」等の操作を進めてください。
- ポスター発表については、申込時に希望された方のみ参加者専用サイト上に掲載します。A4サイズ一枚分（縦置）でお願いいたします。詳しくは大会 HP の発表要領をご参照ください。

7. 発表に係る機材について

- 発表に必要なインターネット環境、マイクとカメラ（PC 内蔵のものを含む）は各自でご準備ください。またあらかじめ Zoom アプリをダウンロードしておいてください。
- 分科会開始前に、必ず各自で接続のチェックや音量の調整等、必要な準備をお進めください。（9月5日にカメラ・マイクチェックのためのリハーサルを予定しています）
- 基本的にマイクはミュートの設定にしておき、報告時のみミュートを解除してください。

ご自身のカメラ画像を表示するかしないかは任意です。

8. 発表資料について

- 資料につきましては、希望される方のみ、事前に所定の期日までにお送りいただければ大会 Web サイトの参加者専用サイトにリンクを貼り、ダウンロードできるようにさせていただきます。詳細は発表要領をご確認ください。

9. 分科会等会場

- 遠隔配信での口頭発表は、10 分科会を設定しております。参加される発表会場（Zoom ミーティング ID）をご確認のうえ、それぞれご入室ください。
- 分科会で使用する Zoom ミーティング ID / パスワードの設定は学会事務局が行いますので、発表者が個人で Zoom アカウントを取得し、ミーティングを設定する必要はありません。
- 各会場のミーティング ID / パスワードは、9 月 7 日(月)までにメールでご案内を差し上げます。@jsste.jp のメールを受け取れるようにしてください。9 月 8 日になってもメールが届かない場合は、大会事務局までお問い合わせ下さい。

10. 研究倫理学習会ならびに定期総会

9 月 12 日（土）13:00～13:30 に研究倫理学習会を行います。また、これに引き続いて 13:30～14:30 に定期総会を行います。会員の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

なお、大会前日の 11 日（金）15:00～16:30 には、「研究倫理研究会」を行います。会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

発表会場（Zoom ミーティング ID）の情報については、参加申し込み者には参加者専用サイトで、学会費完納会員には、メールおよび会員情報管理システム内でお知らせいたします。

11. 公開シンポジウム

- テーマ：

「教師教育を原理的に問い直す～教師を目指す学生が大学で学ぶべきことは何か？」

- 日時： 9 月 12 日（土） 14:45～17:45
- シンポジスト： 山崎 奈々絵（聖徳大学）
岡部 美香（大阪大学）
鹿毛 雅治（慶應義塾大学）
- 指定討論者： 浜田 博文（筑波大学）
- 発題・司会： 佐藤 英二（明治大学）

12. 課題研究／特別課題研究／研究推進・若手交流支援企画

- 9 月 12 日（土） 9:00～12:00

課題研究Ⅰ 教師教育研究の成果と課題の検討（その3）

—今後の教師教育研究に向けて—

課題研究Ⅲ 教師教育「高度化」の政策的検討

—教職大学院の今後を考える—

○ 9月13日（日）13:00～16:00

課題研究Ⅱ 教師教育改革の国際動向と比較研究の課題

—教師教育における社会的公正の観点と課題—

特別課題研究Ⅰ 防災・学校安全と教師教育

—「大学教職課程の防災・安全教育カリキュラム・ガイドライン」に向けて—

特別課題研究Ⅱ 大学教育と教職課程

—研究活動の総括と今後の展望—

○ 9月13日（日）16:30～18:00

研究推進・若手交流支援企画

教師の力量形成における実際とそのあり方

—幼児期の教育と小学校教育を中心にして—

13. ラウンドテーブル（リアルタイム発表希望企画）

○ 9月13日（日）16:30～18:00

① 初任者教員をめぐる研究課題

9月11日（金）大会前日

研究倫理研究会（限定公開）

※Zoom（リアルタイム配信）

拡充する教職大学院における研究倫理教育の現状と課題

【趣 旨】

実践的な指導力・展開力を備える教員とスクールリーダーの養成を目的として平成20年に19校でスタートした教職大学院は、現在全国54大学に拡充され、今後の我が国の教員養成・教師教育施策において中心的役割を担っていくことが期待されています。そこでは、新しい教師教育の実践と教師研究が生み出されようとしており、本学会員の多くが既にその取組に参画しています。本公開研究会は、教職大学院が抱える研究倫理の課題について情報を交換し、それらへの対応について考えたいと思います。教職大学院で学生指導にあたっている皆さん、そこで実践研究に取り組んでいる院生の皆さん、教職大学院の未来像に関心を持っている会員の皆さんに多数ご参加いただき、問題意識を共有する機会にしたいと考えます。

※なお、本研究会は、研究倫理の啓発のために本学会が実施するZoom Meeting形式の学習会の可能性を検討する機会としたいと考えています。どうかご協力ください。

【司 会】 紅林 伸幸（常葉大学） ※研究倫理規程ワーキンググループ 担当理事

1 提案

【報告者】 岩田 康之（東京学芸大学）

【講演題目】 教師教育研究の研究倫理を考える：教職大学院を素材として

2 意見交換

9月12日（土）大会第1日

課題研究Ⅰ

課題研究Ⅲ

研究倫理学習会

定期総会（学会員のみ）

シンポジウム（限定公開）

※Zoom（リアルタイム配信）

教師教育研究の成果と課題の検討（その3）

—今後の教師教育研究に向けて—

【趣 旨】

今期の課題研究Ⅰ部会では、『教師教育研究ハンドブック』（2017年）の部構成を手がかりにして、これまでの教師教育研究の研究レビューを積み重ね、教師教育研究の全体マップを作成することを目指してきました。ハンドブックの全てをレビューしてはいないので、全体マップを作成するところには到達できていませんが、従来の教師教育研究の研究対象、研究方法、研究視角、隣接研究領域との繋がりなどをめぐって、今後の研究にとって重要と思われるいくつかの課題が浮かび上がってきました。

そのような今期の部会での議論を踏まえながら、最終報告として3人のメンバーが「今後の教師教育研究に向けて」ということを意識しながらから報告を行います。論点はかなり幅広いものになると思いますが、参加者の皆様とともに活発な討議を展開し、本学会の研究活動が「教師教育研究の新たな地平を切り拓く」という方向へ発展していける足がかりを得られるよう願っています。

【司 会】

山崎 準二（学習院大学）、浜田 博文（筑波大学）

【報告者】

1) 高谷 哲也（鹿児島大学）

教師集団による研究・学習の場で教師教育研究者が果たす役割について

2) 三品 陽平（愛知県立芸術大学）

教師教育領域における質的研究論文の質について—方法（論）的要件の観点より—

3) 長谷川 哲也（岐阜大学）

「教員育成」の政策動向と「教師教育」の研究課題について

教師教育「高度化」の政策的検討

—教職大学院の今後を考える—

【趣旨】

課題研究Ⅲ「教師教育『高度化』の政策的検討」部会では、これまでに主に、(1)「教職大学院」の成立と展開に至る政策動向（およびその背景の力学等）の整理、および(2)いわゆる「ストレートマスター」を対象とした、大学院レベルでの入職前の教師教育実践の事例検討を進めてきました。

今回の大会のセッションでは、コーディネータよりこれまでの本課題研究での検討状況と、そこで見えてきた論点の報告を行います。後半は、それらの報告を基に、各方面からの話題提供を受けて意見交換を行うパネルディスカッションを企画し、参加者のみなさんとともに、日本の教職大学院を軸にした、修士レベルの教員養成教育の今後のありようを考える場としたいと思います。

オンライン形式で行う初のセッションとなりますが、ご関心のある方々の積極的な参加を期待いたします。

【コーディネータ】

岩田 康之（東京学芸大学）、三石 初雄（東京学芸大学・名誉教授）

【報告】

- 1) 三石 初雄（東京学芸大学・名誉教授）
日本の高度専門職業人養成政策と教職大学院
- 2) 岩田 康之（東京学芸大学）
日本における教師教育の高度化：論点と課題

【パネルディスカッション：教職大学院の今後を考える】

パネリスト：

- 三石 初雄（東京学芸大学・名誉教授）
- 前田 輪音（北海道教育大学教職大学院）
- 井上 温子（元・大阪府和泉市立郷荘中学校）
- 松野 可奈絵（茨城県 公立中学校教員）

研究倫理の実質化に向けての学会組織体制の在り方

【趣 旨】

昨年度の第29回定例総会において採択された研究倫理規程は、本学会員がそれを遵守徹底することによって、安心して研究活動に取り組めることを期待したものです。そのために、本学会は積極的に研究倫理に関わる情報提供と啓発活動を行っています。こうした取組を恒常的に実施し、また今後起こりうる様々な研究倫理の問題に適切に対応するためには、学会の組織体制をどのようにしていくのがよいか、会員の皆さんと一緒に考えたいと思います。多くの会員の参加をお願いしたいと思います。

【司 会】 研究部会長 牛渡 淳（仙台白百合女子大学）

【報告者】 研究倫理規程ワーキンググループ 担当理事 紅林 伸幸（常葉大学）

日本教師教育学会 第30回定期総会

日時： 2020年9月12日（土） 13:30～14:30

議 事

1. 大会校からの挨拶（明治大学）
2. 大会実行委員長挨拶
3. 日本教師教育学会会長挨拶
4. 議長団選出
5. 報告事項
 - (1) 第11期役員選挙結果
 - (2) 一般会務
 - (3) 研究部
 - (4) 年報編集委員会
6. 審議事項
 - (1) 2019年度決算
 - (2) 2019年度決算 監査報告
 - (3) 2020年度予算
7. 次年度の研究大会について
8. 議長団退任

連絡事項

- * 総会に先立ち、同会場で研究倫理学習会が予定されています。
- * 総会参加資格：8月末日までに会費を完納している日本教師教育学会員です。該当会員は、大会参加申し込みをしていなくとも、本総会とそれに先立つ研究倫理学習会に参加できます。
- * 手続き：9月上旬、該当会員にメールにて参加に必要な Zoom 情報を送ります。また、会員情報管理システムでもお伝えします。
- * お願い：学会事務局からのメール(office@jsste.jp)が届くようにしてください。メールアドレスの追加・変更等がありましたら、8月末日までに会員情報管理システムからご自身で変更するか、または学会事務局までお届け下さい。
- * 委任状：会員情報管理システムから送ることができます。なお、委任状提出者にも総会参加に必要な Zoom 情報はお送りいたします。

教師教育を原理的に問い直す

～教師を目指す学生が大学で学ぶべきことは何か？～

【趣 旨】

シンポジウムでは、「教師を目指す学生が大学で学ぶべきことは何か」を問うことを通して、「教師教育を原理的に問い直す」試みに挑戦します。

大会テーマでもふれたとおり、この30年間の「改革」を経て、大学における教師教育は新しい時代を迎えています。その改革が長年の課題の解決に結びつくのか、それとも「あてがわれたことを型どおりにおしえておけばよい、といった気持ちに（私たちを）おとしいれ」（「学習指導要領（試案）」、1947）るものになるかは、まだわかりません。しかし、このたえざる「改革」を経た今日、教師教育のあるべき姿を問う議論がすでに終わっているかのような錯覚に陥っているのは私だけではないでしょう。

そこでシンポジウムでは、この問いを問う意味を探ることも含めて、教師を目指す学生が大学で学ぶべきことを問いたいと考えています。

シンポジストとして、山崎奈々絵先生（聖徳大学／教育史）、岡部美香先生（大阪大学／教育思想）、鹿毛雅治先生（慶應義塾大学／教育心理学）にお願いし、指定討論者として、浜田博文先生（筑波大学／学校経営学）にお願いしています。山崎先生は、戦後教育改革において「師範型」を超える教師を養成するための一般教養の意義を追求してこられ、岡部先生は、近代教育学（批判）の基底にある自己決定論や他者論をめぐる問題を探求しておられます。鹿毛先生は、教育活動の根幹にかかわる動機づけ等の概念を探求するとともに、様々な学校現場で授業研究に関わってこられ、浜田先生は、日米のさまざまなフィールドで教師が成長する学校像を探求してこられました。刺激的なお話を伺うことができるものと思います。質問を受け付ける準備もしております。フロアとの活発なやりとりを期待しています。

【シンポジスト】

- 1) 山崎 奈々絵（聖徳大学）
- 2) 岡部 美香（大阪大学）
- 3) 鹿毛 雅治（慶應義塾大学）

【指定討論】 浜田 博文（筑波大学）

【発題・司会】 佐藤 英二（明治大学）

9月13日（日）大会第2日

自由研究発表(1)

自由研究発表(2)

課題研究Ⅱ

特別課題研究Ⅰ

特別課題研究Ⅱ

ラウンドテーブル

研究推進・若手交流企画

※自由研究発表(2)は Zoom（リアルタイム配信）での口頭発表なし。
その他は Zoom（リアルタイム配信）での口頭発表あり。

ポスターセッション（1）

※参加者専用サイトに資料掲載あり

ポスターセッション（2）

※参加者専用サイトに資料掲載なし

司会：森 透（福井医療大学）

三品 陽平（愛知県立芸術大学）

9：00～9：30

小学校初任者教員研修の現状と課題

—辞める教員と辞めない教員の分かれ目とは—

○中山 正則

（放送大学大学院・埼玉県越谷市立城ノ上小学校）

9：30～10：00

COVID-19 感染拡大防止のための休校措置が新任教師の成長に及ぼす影響についての一考察

—実態の異なる小学校三校に勤務する新任教師たちの自覚に焦点をあてて—

○大村 龍太郎（東京学芸大学）

10：00～10：30

初任教員における問題経験の諸相

—指導教員との関係性についての社会学的分析—

○高嶋 江（立教大学大学院・院生）

休 憩（10分）

10：40～11：10

医療系大学における養護教諭志望学生の学びのプロセス—福井医療大学の事例—

○森 透（福井医療大学）

11：10～11：40

教育 SNS 開発「<分かちあい>対話 Net」の可能性と課題

—Web 活用<分かちあい>システムによる遠隔対話学習&研修—

○徳武 隼人（東京電機大学・院生）

司会：子安 潤（中部大学）
中妻 雅彦（花園大学）

9：00～9：30

大学生による高等学校時代の授業経験と専門教育に関する教科の効果的指導方法の導出

○高木 正史（別府大学）

9：30～10：00

教職課程履修者の学生生活と教職に対する認知

○小幡 佳太郎（早稲田大学大学院・院生）

10：00～10：30

教員養成段階における学習者を対象とした研究の現状と今後の可能性に関する基礎的研究

○山内 絵美理（九州大学大学院・院生）

休 憩（10分）

10：40～11：30

外国人児童生徒等教育を教員養成に位置づける
—文部科学省委託全国調査の結果から—

- 浜田 麻里（京都教育大学）
- 金田 智子（学習院大学）
- 市瀬 智則（宮城教育大学）
- 河野 俊之（横浜国立大学）
- 齋藤 ひろみ（東京学芸大学）

司会：別惣 淳二（兵庫教育大学大学院）

9：00～9：50

学校インターンシップは教育実習の機能をどこまで代替できるのか（Ⅲ）

—学生はインターンシップをどう評価するのか—

○原 清治（佛教大学）

○芦原 典子（京都栄養医療専門学校）

古市 文章（佛教大学）

浅田 瞳（華頂短期大学）

森田 真樹（立命館大学）

9：50～10：40

学校インターンシップは教育実習の機能をどこまで代替できるのか（Ⅳ）

—教員生活を経てインターンシップの評価は変わるのか—

○古市 文章（佛教大学）

○浅田 瞳（華頂短期大学）

原 清治（佛教大学）

芦原 典子（京都栄養医療専門学校）

森田 真樹（立命館大学）

休 憩（10分）

10：50～11：20

〈子ども理解〉を更新する教師の実践的省察

○吉永 紀子（同志社女子大学）

11：20～11：50

教師の創造的熟達—内省と「あり方」に注目して—

○羽野 ゆつ子（大阪成蹊大学）

司会：三村 和則（沖縄国際大学）

9：00～9：50

教師に求められる資質・能力の再考—日本語教育における教師研修を中心に—

○足立 祐子（新潟大学）

○松岡 洋子（岩手大学）

9：50～10：20

「チーム学校」における教員の役割の考察—教育と福祉の連携に視点を置いて—

○臧 俐（東海大学短期大学部）

10：20～10：50

「教育実践の山脈を描く」実践研究—教師のライフコース研究を拓く—

○大脇 康弘（関西福祉科学大学）

休 憩（10分）

11：00～11：30

学習者の信頼を「教師」はどのように受容するか

—「他者の予期の予期」の予備的考察—

○横井 夏子（文京学院大学）

11：30～12：00

リーダーシップ開発における「学習する組織」論の見直し

—発達志向型組織と自己変革の理論と実践—

○荒巻 恵子（帝京大学大学院）

司会：福島 裕敏（弘前大学）

宮崎 充治（弘前大学）

9：00～9：30

若手非正規教員が抱える困難は何か？—インタビュー調査より探る—

○今井 崇恵（山梨大学大学院・院生）

9：30～10：00

財政構造と学校問題からみた非正規教員の増加要因の解明

—パネルデータ分析を用いて—

○菊地原 守（名古屋大学大学院・院生）

休 憩（10分）

10：10～11：00

教育委員会における教員育成指標の政策分析

—研修履歴の活用と人的資源管理・開発—

○大竹 晋吾（福岡教育大学）

○藤本 駿（高松大学）

○牛渡 亮（東北大学・学術研究員）

司会：伏木 久始（信州大学）
佐藤 和紀（信州大学）

9：00～9：30

師範学校における教育観形成に関する一考察—形成過程の統一的把握の試み—
○長谷川 鷹士（早稲田大学大学院・院生）

9：30～10：00

明治社会主義の教師への影響に関する一考察
○小田 義隆（近畿大学）

10：00～10：30

1920年代アメリカの初等教育教員養成改革—議論とカリキュラムモデルの分析—
○奥田 修史（筑波大学大学院・院生）

休 憩（10分）

10：40～11：10

総合的な学習の時間の理論と実践を学ぶ若者の教師教育のあり方
○田尻 敦子（大東文化大学）

11：10～11：40

オンライン方式による「総合的な学習の時間の指導法」の意義と課題
○伏木 久始（信州大学）

司会：高谷 哲也（鹿児島大学）

9：00～9：30

車いす使用の学校教師の困難と支援

○中村 雅也（東京大学）

9：30～10：00

インクルーシブ教育を推進する教員のマインドセットに関する一考察

○是永 かな子（高知大学）

10：00～10：30

『想像』する学校防災から生まれる『創造』的学校防災に関する実践研究
—阪神・淡路大震災の教訓に基づく防災意識の向上に向けて—

○中村 洋介（兵庫県立大学大学院）

浦川 豪（兵庫県立大学大学院）

休 憩（10分）

10：40～11：10

集団意志決定としての校内研修が教師の自己効力感に与える影響

○千々布 敏弥（国立教育政策研究所）

11：10～12：00

校内研究の改革過程における教師教育研究者の果たす役割に関する一考察

○高谷 哲也（鹿児島大学）

○藤 朱里（鹿児島大学）

司会：武田 信子
草原 和博（広島大学）

9：00～9：30

中国貧困地域の公立学校における「校本教研」の展開と課題に関する研究
—事例分析を中心に—

○毛 月（筑波大学大学院・院生）

9：30～10：00

教師自己概念の実践表出—「私は誰か」の観念は力量とどのように結びつくか—

○津久井 純（(社)麻布教育研究所）

10：00～10：30

「主体的な学び」に求められる教師の実践的指導力

—インプロの指導法に着目して—

○伊藤 圭祐（岡山大学大学院・院生）

酒向 治子（岡山大学大学院）

休 憩（10分）

10：40～11：30

教師教育者が学生に期待する主体性

—協働的なセルフスタディを通じた批判的考察—

○齋藤 眞宏（旭川大学）

○大坂 遊（徳山大学）

○渡邊 巧（広島大学大学院）

司会：牛渡 淳（仙台白百合女子大学）
櫻井 直輝（会津短期大学）

9：00～9：30

アジアにおけるレッスンスタディの検証

—香港とインドネシアの教師の省察過程を中心に—

○滝本 葉子（学習院大学大学院・院生）

9：30～10：00

自律的な活用を促進する教員の専門職基準はいかにあるべきか

—全米教職専門基準（NBPTS）の分析を通して—

○藤村 祐子（滋賀大学）

○川口 広美（広島大学大学院）

10：00～10：30

オーストリアにおける教員養成制度改革による変化と課題

○田中 達也（釧路公立大学）

休 憩（10分）

10：40～11：30

カリフォルニア州における教員スタンダード—ガバナンスと内容に着目して—

○牛渡 淳（仙台白百合女子大学）

○櫻井 直輝（会津大学短期大学部）

○木場 裕紀（大同大学）

司会：木原 俊行（大阪教育大学大学院）
小柳 和喜雄（関西大学）

9：00～9：30

Standards for Teacher Educators と研修の関係考察

- 小柳 和喜雄（関西大学）
- 木原 俊行（大阪教育大学大学院）
- 野中 陽一（横浜国立大学）

9：30～10：00

教職大学院実務家教員による教育実践研究の実態

—教師教育者としての取り組みに注目して—

- 木原 俊行（大阪教育大学大学院）
- 小柳 和喜雄（関西大学）
- 野中 陽一（横浜国立大学）

10：00～10：30

教職大学院の模擬授業実践において現職教員学生が直面する困難

- 園部 友里恵（三重大学・非常勤）

休 憩（10分）

10：40～11：10

実務家教員の持つ学校実践知の教材化とその活用

- 田中 満公子
（大阪教育大学連合教職大学院）
- 深野康久（桃山学院教育大学）

11：10～11：40

私立学校に勤務する教師の数学教育観の特徴

—ライフストーリーによる事例の分析・考察—

- 森田 大輔（東京学芸大学大学院・院生）

11：40～12：10

数学教師が有する「授業力」に関する一考察—「同一授業」の比較を通して—

- 谷地元 直樹（北海道教育大学）

自由研究発表（2）

※Zoom（リアルタイム配信）での口頭発表なし

- ①教職キャリアにおける教師の内省の機会に関する課題の検討
○胡田 裕教 (大阪産業大学)
- ②探究学習過程における高校教師の支援のあり方に関する研究
—生徒の語りに着目した生徒と教師の協同考察—
○福永 理紗 (かえつ有明中・高等学校)
金井 達亮 (東京大学大学院・院生)
- ③「社会力の育成」を目指した防災教育支援—「避難所運営模擬体験」の実践を通して—
○本多 環 (福島大学)
- ④小学校での対話的学び—授業研究会での事例を手がかりに—
○長谷川 慶子 (都留文科大学・非常勤)
- ⑤米国カリフォルニア州の大学における教員養成のカリキュラム
—教職の専門職化と高度化に着目して—
○星野 真澄 (筑波大学)
- ⑥教師教育における「多様性」概念の学びの再検討
○香川 奈緒美 (島根大学)
- ⑦「地域創造型教育ガバナンス」の構築に向けた「地域創造型教師養成」の取り組み
—新型コロナ肺炎流行下、体験的学習が困難な状況における学校と地域との連携・協働の重要性を実感的に理解するための機会の提供—
○宮前 耕史 (北海道教育大学釧路校)
半澤 礼之 (北海道教育大学釧路校)
小林 淳一 (北海道教育大学釧路校)
- ⑧生徒指導についての教員の意識と行動に関する一考察
—教職経験年数との関係を中心に—
○岡邑 衛 (甲子園大学)

- ⑨教員養成学士化と国際協力—カンボジアとミャンマーを事例に—
○小野 由美子（早稲田大学）
前田 美子（大阪女学院大学）
- ⑩授業研究への不適応経験—<遊離>する教師に着目して—
○大津 璃紗（株式会社パデコ）
津久井 純（（社）麻布教育研究所）
- ⑪教育実習の効果と経験—高校での教育実習に注目して—
○櫻田 裕美子（宮崎産業経営大学）
- ⑫高度経済成長期中期に入職した新任教師の力量形成の特徴に関する考察
○佐藤 良（東洋大学）
- ⑬専門学校教員のライフストーリー研究—資格教育分野の教員を対象として—
○瀧本 知加（東海大学）
- ⑭戦後初期の教育実習改革—教員養成系大学・学部の事例から—
○山崎 奈々絵（聖徳大学）
- ⑮ICT の活用と教師の継続的学び—コロナ危機を契機に—
○百合田 真樹人（独立行政法人教職員支援機構）
- ⑯若年教員の休職・離職理由に関する考察—先行研究の整理を中心として—
○渡邊 晶帆（福岡大学大学院・院生）
- ⑰学校と地域の連携からみた校長のリーダーシップ
—事例を基礎とした研究枠組みの検討—
○小出 禎子（愛知工業大学）
- ⑱初等教員養成における教職実践演習の課題—実践報告の俯瞰的検討—
○鶴田 百々（九州大学大学院・院生）
- ⑲新型コロナウイルス感染症対応による中国学校教育の変容
○張 建（東京電機大学）
- ⑳教育におけるウェルビーイングの探究
○小嶋 英夫（文教大学）

②『家庭部会報』にみる高等学校家庭科教師の専門性発達—1960年代を中心に—

○計良 智子（東洋大学大学院・院生）

②新型コロナウイルスによる学生への影響

—教育実習時期・期間変更に伴う学生の不安—

○時田 詠子（群馬医療福祉大学）

②教育不正に対する教師の態度—教師教育援助への示唆—

○前田 美子（大阪女学院大学）

教師教育改革の国際動向と比較研究の課題

—教師教育における社会的公正の観点と課題—

【趣 旨】

今期の課題研究Ⅱ部会では「教師教育における社会的公正の観点と課題」をテーマに研究を行っている。子どものニーズが多様化するなか、社会的公正の視点を有する教育や、その教育の担い手を育成するための教師教育が必要とされているが、こうした課題は本学会の課題研究等において十分に対象化されてきたとは言い難い。そこで本部会では、教師教育において「社会的公正」や「社会正義」の概念がどのように位置づけられているのかを各国・地域の取り組みに即して捉えながら、そこで求められる教師像や教師教育の在り方について分析している。

1年目は、アメリカの教師教育施策を対象にして教師の職業的自律性や、それに基づく教師教育の自律的改善システムについて分析した。2年目は、教師教育における社会的公正を考えるための理論的・概念的枠組みを整理しながら、教育の場における多様性について、ヨーロッパの課題を分析した。最終年度の第30回大会では、オーストラリア、アメリカ、イギリスの取り組みを分析し、社会的公正の実現に資する教師教育やそれを支える仕組みについて議論を深め、3年間の研究の総括としたい。

【司 会】

吉岡 真佐樹（京都府立大学）、 佐藤 仁（福岡大学）

【報告者】

1) 前田 耕司（早稲田大学）

「オーストラリア先住民族の専門職養成—ポストコロニアリズムと社会的公正—」

2) 玉井 康之（北海道教育大学）

「アラスカ州の教師教育における社会的公正—地域協働型教師教育施策の検討—」

3) 佐藤 千津（国際基督教大学）

「イギリスの教師教育における社会的公正—GTCS(General Teaching Council for Scotland)の取り組みから—」

防災・学校安全と教師教育

—「大学教職課程の防災・安全教育カリキュラム・ガイドライン」に向けて—

【趣 旨】

発足以来の現地調査（阪神・淡路、長野、福島、熊本ほか）に最近の視察（南海トラフ地震に向けた高知、東日本大震災の宮城）、および各メンバーの知見・研究を集大成して、「大学教職課程の防災・安全教育カリキュラム・ガイドライン」を作成してきた。小・中・高校、幼保、特別支援学校の教員も活用できるものを目指してきた。

多くの先生方、市民、院生の意見を伺いたく、その骨子や一部分となるものを報告することで、具体的に何をどのように学生や子どもに伝え、考えて合っていくかを検討する。

【司 会】 神永 典郎（白百合女子大学）、金馬 国晴（横浜国立大学）

【報告者】

0) 開催趣旨と5年間の研究活動の説明 金馬 国晴

1) 東日本大震災における石巻市立大川小学校の問題

—これからの学校災害事故を防ぐための取り組みへの提案—

中山 正則（放送大学大学院、越谷市立小学校）

2) 教職課程で学ぶべき防災・防災教育の内容

—防災管理・防災教育の視点でミニマム・エッセンシャルズを考える—

諏訪 清二（兵庫県立大学）

指定討論) 木内 剛（元・成蹊大学）、杉山 一郎（防災アドバイザー）

※参加者の知恵を寄せ合って、防災・安全教育（新型コロナウイルス他感染症対策を含む）の方向性や改善案を考え合い、ガイドラインのさらなる書き換えと実際の実践化に活かしていける会にしたい。

大学教育と教職課程

—研究活動の総括と今後の展望—

【趣 旨】

特別課題研究Ⅱは、2017年の教育職員免許法施行規則改正に伴う、各大学の再課程認定申請時に表面化したさまざまな問題に端を発し、今日的な視点からあらためて大学における教職課程について理論化することを目的として発足した。再課程認定に関する情報収集を主目的としたアンケートの実施を端緒として、これまでに下記のような研究会（シンポジウム）を行ってきた。

- ・2018年11月25日 シンポジウム「今、再課程認定を再考する」（話題提供：鹿毛雅治氏、三村和則氏、指定討論：町田健一氏）
- ・2019年6月15日 公開シンポジウム「教師教育改革を問い直す」（学会主催）
- ・2019年9月22日 第29回大会課題研究（発表者：勝野正章氏、牛渡淳氏、高野和子氏）
- ・2019年12月7日 公開研究会（報告者：浦野東洋一氏「教育学部教員の多様化がもたらす波紋について考えてみる」）
- ・2020年2月11日 公開研究会（報告者：三石初雄氏「教科関連科目のコアカリキュラムと教師の専門職力量の向上」）

今年度の大会では、中教審教員養成部会の動向および再課程認定後の現状等も視野に入れながら、これまでの研究活動を総括するとともに、今後に向けた研究課題を明確化することを通して、大学で教員を養成することの意味や意義について検討を深めたい。

【報告者】

- 1) 高野 和子（明治大学）

「教職課程の質保証とは—日本学術会議「教育学分野の参照基準」を念頭に」

- 2) 牛渡 淳（仙台白百合女子大学）

「教職課程コアカリキュラムの再吟味—政策と研究の関わりを問う」

- 3) 伏木 久始（信州大学）

「教職課程カリキュラムの将来—教員養成系と開放制養成系の今後を展望する

①：教員養成系の立場から」

- 4) 仲田 康一（大東文化大学）

「教職課程カリキュラムの将来—教員養成系と開放制養成系の今後を展望する

②：開放制養成系の立場から」

【コーディネーター】

鹿毛 雅治（慶應義塾大学）、勝野 正章（東京大学）

ラウンドテーブル（１）

※Zoom（リアルタイム配信）での口頭発表あり

①初任者教員をめぐる研究課題

■企画者・登壇者

藏原 清人（工学院大学・名誉教授）

安倍 満志（千葉公立小学校）

山崎 奈々絵（聖徳大学）

藏原 三雪（元・横浜創英大学）

山中 和由（工学院大学・非常勤）

■概要

教職について一年の間（以下、初任者教員という）が職務の多忙化や職場環境の問題から病気になり休職したり、退職を余儀なくされたりする事例がでていいる。中には自殺にまで追い込まれる事例も出ていいる。このようなことは希望と意思を持って教職に就いた者の初心を生かせないだけでなく日本の教育にとっても大きな損失であろう。

このラウンドテーブルでは、初任者教員の置かれている職場環境を明らかにしその初心を生かすためには何が必要かを考えるものである。これまでの調査では、職場によって管理職・初任者教員指導者などの姿勢が大きく異なりそれによって初任者のおかれる環境も様々であることが分かってきた。管理職等の任用の基準は外部の研究者ではなかなか知ることができないが、制度的な基準がどうなっているか、管理職にふさわしい資質をどう考えるかということは重要な課題ではないだろうか。

これまで教師教育は養成・採用・研修を中心に研究されてきたが、採用後の職場適応、すなわち職場環境・勤務条件を解明することで職場に慣れ教育の活動が続けられなければ、その後の研修の問題を研究しても意味がないといわなければならない。このラウンドテーブルはこれまでの研究の報告を行うとともに今後学会として、このテーマを取り上げ研究していくことを提起したい。

初任者は、着任した瞬間より、学習指導要領、様々な児童や保護者、校務分掌、危機管理等へ対応しなければならない。そのような初任者を支えるためには、＜環境指標＞を設定していくことが大切である。安倍会員は、初任者との関わりの中で得た事例を基に、初任者を支える具体的な環境について提起したい。

山崎会員は、初任者（小学校教諭と保育者）に対するインタビューを通して見えてきた、近年の初任者の職場に対する思いや困り感を紹介し、今後の研究に繋がる視点などを参加者の皆さんと考えたい。

指定討論者は二つの報告を受けて初任者教員問題に関して今後どう対応するか、研究の課題も合わせて提案を頂く。

ラウンドテーブル（2）

※Zoom（リアルタイム配信）での口頭発表なし

①新型コロナウイルス影響下の子どもと教師のあり方
—家庭で遊ぶことと教師の対応や関わりについて考える—

■企画者・登壇者

田中 卓也 (静岡産業大学)
中塚 健一 (小田原短期大学)
時田 詠子 (群馬医療福祉大学)
香曾我部 琢 (宮城教育大学)
中島 眞吾 (中部大学)

■概要

本ラウンドテーブルは、「教師養成と子ども文化—そして遊べる教師がいなくなった—」の第5報であり、これまでの共同研究の続編となる。本年1月に中国武漢で発生した「新型コロナウイルス」はやがて日本各地で猛威を振るい、蔓延拡散を見せている。この爆発的な影響は日本全国を震撼させた。国内の政治・経済・教育も停滞する中で教師と子どもはどのように対応していくべきか、今後問われることになる。コロナの影響下において学校教育は徐々に再開の動きを見せているが、家庭が中心であり、家庭が子どもたちの教育、遊びの場所と化した。子どもは家庭でどのように遊びを行い、経験しているのか、そして学校現場の教師は、この局面を乗り切るためにどのような対応していくべきか、また学校再開後、子どもたちにどうかかわるべきなのかについて議論を進めていきたいと司会、登壇者、関心のある会員の方々とともに考えていこうとするものである。

教師の力量形成における実際とそのあり方

—幼児期の教育と小学校教育を中心にして—

【趣 旨】

これまでの「研究推進・若手交流支援企画」（過去6回実施）では、小学校から高等学校の教科教育に注目して、若手会員を中心に教師教育の実践や研究を共有しながら「教師の力量形成の実際とそのあり方」について議論を深めてきた。今回は、本学会で十分に光が当てられて来なかった「幼児期の教育」および「幼小連携・接続」を切り口にした。

近年、幼小の連携・接続が進められている。幼児期の教育は“生活や遊びの中”で展開される一方で、小学校教育は“教科等の授業を通して”展開される。こうした文脈において、幼稚園教員・保育士および小学校教員の力量形成は、それぞれどのように捉えられ、教師教育が行われているのか。“教師教育者”が、それぞれの考えや悩み、実際を連続的に議論しながら、両者の相違点や結節点を見出していくことが求められるのではないか。

論点は、次の2点である。1) 幼児期の教育または小学校教育における教師（保育者）の力量形成をどのように考え、教師教育（養成・研修等）の実践や研究を行っているのか。そこでは、どのような課題があるか。2) 幼小連携・接続を進めるために、教師教育（教師教育者）には何ができるか。また、参加者同士のディスカッションの場を設定し、会員相互のネットワークを構築する。

【担当理事／企画】

鹿毛 雅治（慶應義塾大学）、高旗 浩志（岡山大学）、前田 一男（立教大学）

【学会幹事／企画・司会】

望月 耕太（神奈川大学）、渡邊 巧（広島大学）

【学会幹事／企画・ファシリテーター】

沖 奈保子（東京都立国際高等学校）、小田 郁予（東京大学・院生）、
田中 里佳（上野学園大学）

【話題提供者】

- 1) 内田 千春（東洋大学、乳幼児教育学・子ども学）
- 2) 近藤 千草（川村学園女子大学、幼児教育学）
- 3) 浅野 信彦（文教大学、カリキュラム研究・教師教育）

ポスターセッション（1）

※参加者専用サイトに資料掲載あり

- ①ジェネリックスキルにみる養護実習の効果～PROG テストの活用～
○池上 徹（関西福祉科学大学）
- ②大学と教育委員会の連携・協働による現職研修の効果検証
○久保 研二（島根大学）
松尾 奈美（島根大学）
塩津 英樹（島根大学）
中村 怜詞（島根大学）
丸橋 静香（島根大学）
熊丸 真太郎（島根大学）
- ③プロセスレコードによって「教師—子ども」のかかわり合いを省察する
○角田 豊（京都連合教職大学院）
- ④特別支援教育に関わる養成段階を含む教師の学び 1—遠隔地間の相互作用の分析から—
○太田 容次（京都ノートルダム女子大学）
- ⑤幼児の発話を生み出す保育活動の枠組み
—描画活動時の幼児同士の位置関係に注目して—
○高橋 一夫（神戸親和女子大学）
- ⑥国際研究交流部・第10期報告—“学会”としての国際研究交流の現在とこれから—
○日本教師教育学会国際研究交流部

ポスターセッション（2）

※参加者専用サイトに資料掲載なし

- ①現職教員が大学院で学ぶことによる視野変化の意義
○備瀬 美香（東京大学大学院・院生）
- ②地域間移動を展望した教員志望の学生の学びと時間的展望
—へき地・小規模校体験実習を受講した学生の事例から—
○半澤 礼之（北海道教育大学釧路校）
- ③階段教室でマイクを使った「教育相談と進路指導」の授業
—履修者数 127 名での授業実践報告—
○村石 幸正（中央大学）
- ④教師の「子ども認知」に関する研究—今後の教師教育への視点—
○小沼 豊（北海道教育大学）
- ⑤大学教員の卓越性に関する大学生の認識—初年次科目の受講生を対象に—
○根岸 千悠（大阪大学）
- ⑥嘉納治五郎と道徳教育思想の形成
○田中 卓也（静岡産業大学）
- ⑦関東地方における短期大学の『教育原理』講義のシラバス分析と考察
○八幡 眞由美（国立音楽大学）
中塚 健一（小田原短期大学）
田中 卓也（静岡産業大学）

日本教師教育学会第30回研究大会

プログラム（第二版）

[発行者] 日本教師教育学会第30回研究大会実行委員会
大会実行委員会委員長 佐藤 英二
大会実行委員会事務局長 伊藤 貴昭
大会実行委員会委員（五十音順）
伊藤 直樹、関根 宏朗、高野 和子、
藤井 剛、山下 達也

[発行日] 2020年9月2日

[連絡先 大会実行委員会]

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1

明治大学 日本教師教育学会第30回大会実行委員会事務局

E-mail cnf@jsste.jp

[連絡先 学会事務局]

〒344-0061 埼玉県春日部市粕壁 3-10-1-1705

日本教師教育学会事務局

Tel 070-6441-0943

E-mail office@jsste.jp